



優秀賞

函館方面 有限会社 鳥海
「地元企業と消費者との交流の場の提供」事業



有限会社 鳥海 取締役 副社長
恩田泰久さん



有限会社 鳥海 営業部リーダー
工藤裕美さん

ホールの駐車場を会場とする朝市の

自然との共生、社会や地域との共生、障害を持つ人や社会的に弱い立場に置かれている人との共生……など、社会や暮らしのさまざまなレベルで「共生」が求められている。本来、人間というものは、個人であれ、集団であれ、孤立しては生きてゆけない存在である。にもかかわらず、これだけ共生が問題となるのは、そこにギャップや亀裂が生じていることの表われだろう。

地域との共生ということ注目すべき取り組みを行っているのが、北海道の函館方面遊技業協同組合に加盟する有限会社「鳥海」である。同社が経営するパチンコ「富士」はパチンコ261台、パチスロ68台を設置し、傘下組合中でも小規模のホールだが、毎年、地域活性化や社会貢献を目的としたイベントを積極的に展開している。

その目玉となっているのは、毎年5月から10月までの半年間（おもに日曜日）、開店前の駐車場を開放して行われる朝市である。このイベントは、函館市内27店舗の協賛出展企業との共同企画により実施されているもので、地場産品である新鮮野菜、鮮魚、手作り加工品、乳製品などを販売している。顔と顔を見合せながらの対面販売は、消費者と地元の生産者、自営業者、中小企業との交流の場になるとともに、地域に活力を取り戻すためのきっかけにもなる。また、地元の食材や食品を扱うことで、食と食文化の情報発信、食の安心・安全を考えることにも一役かっている。

2008年は25回開催され、延べ2600人以上の市民が来場したという朝市だが、同社では駐車場を提供するだけ



週末の朝市として定着しつつある人気イベント



地元産の野菜や魚介類などが並ぶ

開催で、地域住民と地元企業を連携する結節点となる

でなく、ポスターやチラシを作成・配布してイベントの周知に努めているほか、従業員がボランティアとして手伝っている。また、それらの地場産品を景品として取り扱うことで、ユニークな景品として遊技客から好評を得るとともに、地元企業の販路拡大にも貢献している。

その朝市でのもうひとつの人気商品となっているのが、地元の知的障害者施設「社会福祉法人 かいせい」が作る手作りケーキやパンなどである。このイベントでの販売を通じて施設の運営費捻出に寄与しているだけでなく、これらのケーキやパンを端玉景品としてホールのカウンターに並べることで、側面から施設への支援活動を行うとともに、障害者福祉へ関心を持ってもらえるよう、遊技客への啓蒙にも取り組んでいる。

また、函館市を含む近隣の社会福祉団体やNPO法人などが開催する福祉イベントやチャリティイベントなどに対しても積極的に支援し、自社の宣伝チラシに掲載するなど、告知に協力している。たとえば2008年は、北

市で開かれた障害者も一緒に楽しめる「北海道ユニバーサル上映映画祭」や、イラクで増え続ける小児ガンの子どもたちを支援するために開かれた「ラブ・ピース&チョコレート」といったイベントを支援した。

広い駐車スペースがある、多くの地域住民が集まるといのは、パチンコホールの大きな特徴のひとつである。同社が行っている地域活性化活動や福祉支援活動は、そういった立地条件やメリットを最大限に活用した、身の丈に合った社会貢献事業といえる。地域住民、地元企業、ホールが連携して共生社会を創造するという意味で、ひとつの手本となるのではないだろうか。

地元の社会福祉法人の運営をバックアップ



広い駐車スペースというパチンコホールならではの立地を生かす



顔と顔を見合わせでの販売が人気